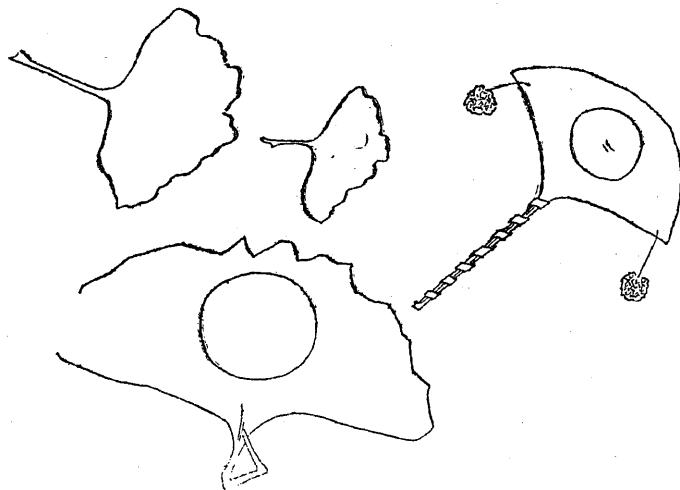


自然物の玩具に就て(一)

膳 真 規 子

自然物を工夫して玩弄致します事は、古くより家庭でいたして居りました事で、今更事新しく申上ます程の事では御ざいませんが、こゝに五六點を擧げますれば、庭の生垣から蝸牛を探り來まして、眼を出せ鎗出せと弄び、又烏賀の甲に帆を付けて舟として鹽に浮べ、又伊勢蝦の眼に竹くしをさして人形の顔に利用し、筈の葉で舟や三角包み、又若芽の巻葉で龜の子や籠を作り、木の葉で草履や笛を作り、蜜柑の皮でお皿や籠、又其袋をくぐら猴とし、又袋の一方を開きて、ひっくり返し、指頭に被せ、お獅子ばくくと動かして、觀音様參りなど、言つて、母の膝下で打ち興じたる事は今尙記憶として残つて居ります。

自然物を幼稚園教育の上に試みましたは、明治二十六年の秋の頃で御座いました。最初の程は如何と存じましたが案外幼兒より簡単にして巧みなる利用を學び、又之れに幾分の調節を加へまして使用いたしましたが、非常なる興味を以て歡迎されましたので、爾來自然物を得る機會ごとに利用いたしましたが、何分土一升が金一升に價する都市の中央にある園の事とて、材料を得ます事が困難で御座いました。其



しむる點には多大なる効果が御座います。

れ故に休日又は機會を作り郊外へ採集に行く事に努力をいたしましたが、此處に有難い事は幼兒の家庭に非常なる同情を得まして、何れかに旅行又は郊外に散策されたる節には必ず種々の自然物の採集されたるものと寄贈せられたるにより使用上大に便宜を得たる事と、今一つは地方より參觀に來られたる人の中には非常に自然物利用に共鳴せられ、地方には自然物の材料豊富にて何れも廢物同様視せられてあるものを斯くも利用巧みに効果ある玩具に轉用される事實に有益に參觀せしとて、歸國の上寄贈せんとて小包郵便又は鐵道便で送附さるゝ方々の年一年毎に増加して遂には都會の地に居りながら山野の自然物も又海邊の自然物も材料豊富に得られ幼兒は思ふ儘に使用され得たる事は全く御同情厚き諸氏の賜と常に感謝して止まざる次第で御座います。

自然物を使用致します事は手技品購求上費用の經濟となるのみならず幼兒に自然物の觀察及び理科的知識を確實に得せ

種々の自然物を與へて幼児に玩弄させますに其利用並に工夫の巧みなる保母の考に優れる發表をなすには實に驚く事で其想像作用により大人の及ばざる命名をなす事の皆様其實施なされる事によりて其効果を見られたし。

自然物は凡て貴き材料として使用されますが今左に至て得易き材

料を挙げますれば

木の實 木の葉 貝殻 小石 砂 小枝 草花等

1 小き枝、草花等 積木遊びの背景に又は周囲の裝飾として
2 貝殻、木の實、小石、木の葉 排べ方遊びの材料 種類の多

い程變化多く玩弄上最も興味多大なり。

3 松かさ一名松ぼっくり
名ちちりん かさの間に色紙を入れて花を作る。

かさの間に名刺をさし又旗立て鳥等を作る。

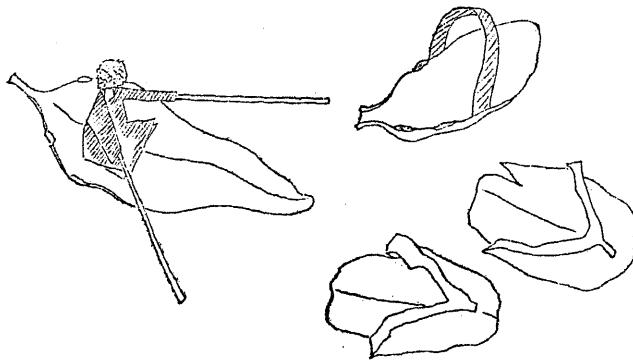
4 三月桃の節句遊び 雛 立雛 其他の道具類を凡て自然物斗

りで工夫した物五十種以上

- 5 五月端午節句遊び 同上

以上は別に出資を要せず工夫になりし物斗りで
家庭に於て數百金を投じて求めたる物以上。幼
兒に興味深し

6 椿の花 櫻の花びら 繋ぎ方に利用



柿の花 藤の花 同上

珠數子球 糸に繫ぎ又は針金に通し種々の形を作る

空豆のさや ポート又籃を作る

竹の皮 立て雛 上下 人形の衣服等を作る

麥 薏 烏 花 馬 虫籠 手桶 指輪 繫方

唐もろこしの皮 姉様 人形 松茸 ほふづき等

同 毛 馬の尾 其他動物の尾に使用

金 柑 人形の顔 繫ぎ方に使用

水瓜の皮 龜の子 舟 又種にて種々なる紋形

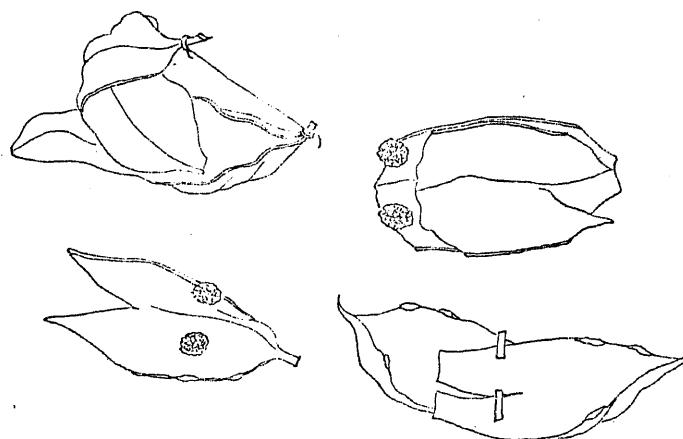
小水瓜 小南瓜 燈籠 容器等

口なしの花 同實 花は水車を作り 實は染料遊び

菊の花 種々なる菊花を紙上に平らに並べて重き押をなし後

取出して毛氈を作る

梧桐の實 人形の首又は豆細工に代用繫ぎ方等
同さ や 舟 籠 ポート 草履 さじ 枠子 面 航掛舟



スコップ 蟬 其他種々

20

銀杏の葉 扇 舟 燈籠 家 塔 天幕 團扇 雛立雛 喇叭 羽子板 ラヂオ 其他種々

21

檜かんな屑 檜のかんな屑最もよし 手提籠其他種々

22

大どんぐり ユウカリの實 獨樂其他人形の首を作る

23

せんだんの實 人形の顔に最もよし 其軸で種を作る

24

柏の葉 櫻の葉 柿の葉 武者人形を作る

25

蘭 掛花器 飛行機 馬 蛇等

26

猫柳 ねづみ

27

藤の實のさや 糜のふし 大刀を作る

28

種々の草花 すみれ たんぽぽ 蓮華草等を以て花束とし胸部に勳章として付ける

29

松葉 簪 松葉すもふ 草履其他五十餘種

30

鮑貝 大い植木鉢 小は手提 紙よりて手を付けて

(さしづば 銀杏の葉・桐の實にて作りしもの)

——つづく——